

OPINION

生理学女性研究者の会・活動報告

帝京大学医学部第一生理 菅原美子

生理学女性研究者の会が発足してから、準備の段階も含めて早3年が経過しようとしています。その間、多くの人に助けていただき会員も増えてきました。しかしまだ多くの方々にはなじみが薄いと思われれますので、本会の趣旨をご理解いただくために、現在の活動について紹介いたします。

1. 生理学女性研究者の会 (Women in Physiology of Japan, WPJ) とは

近年の女子学生の増加とともに研究者をめざす人も増え、女性研究者がメンバーに入っている研究室も多いと思われれますが、その身分となると、生理誌巻頭言「生理学と女性研究者」(58巻2号)にもあるように、女性会員のおよそ7割が助手以下という統計があります。実験に長時間拘束されることや将来性に失望し辞める人、家事・育児との両立に挫折する人など後をたちません。その原因には社会構造上の問題点ばかりでなく、一つには若い研究者に助言や励ましを与えられる指導者層が女性研究者に少ないことが挙げられます。また研究者同士のつながりも希薄であるため、ひとり奮闘している人も多く存在します。

女性研究者の会は、そのような女性会員の親睦と交流をはかるとともに、研究資質の向上・研究環境の改善を目的として作られました。まずはできることから、研究者同士が連携を深め助け合う場を設けたいというのが出発点です。そしてお互いに刺激しあい切磋琢磨する中から優れた研究者と業績がたくさん生まれるようになることを目標としています。現在私たちは以下に述べる3つの活動を行っています。

2. 女性研究者の集い

1995年の生理学会で、グループディナーの一つとして「第一回女性研究者の集い」が開かれ、これが

事実上の会の発足となりました。参加者は22名、さまざまな希望を心おきなく話し合える喜びにあふれていました。

1996年の生理学会グループディナーでは「第二回女性研究者の集い」として、横浜市立大学の貴邑富久子先生の講演の後、懇親会が持たれました。貴邑先生のライフワークとも言える内容と学問への情熱は参加者に伝わり、心を奮い立たせてくれるものがありました。遠くから見ていただけの人たちと親密になれるのもこのような機会だからこそと言えます。

1997年の生理学会では「第三回女性研究者の集い」として、関西医科大学の玄番史恵先生の講演と懇親会を計画しています。会員でなくとも興味のある人は参加してみてください。

3. ニュースレターと WPJ メールネットワーク

会員相互の交流及び意見・情報交換の場として、1995年より年2回ニュースレターを発行しています。提言・調査を主題とした「OPINION」、一人の女性研究者が歩んだ道程を紹介する「研究遍歴」、女性研究者の今を伝える「会員便り」など、記録性とじっくり読めることを主眼にしています。またニュースの即時性に対応するため、「WPJ メールネットワーク」として電子メールネットを設け、ニュースや公募のお知らせに活用しています。

4. WPJ ホームページ

今秋(1996年10月)ホームページを開設しました。いつどんな活動をしているかを会員に伝えるとともに、会員以外の人にも知っていただくことが目的です。会の設立からこれまでの活動内容、申し込みの方法、ニュースレターへの投稿案内など手軽に見ることができます。生理学会のホームページからもリンクがあります。男性も含めた多数の方々からの利

用を歓迎します。

アドレス：<http://>

kipcwww.ipc.kanazawa-u.ac.jp:8080/~med2/05/WPJ-MENU.html

5. 終わりに

北米の神経科学大会に出かけると女性研究者がいきいきと活躍しているのを目にします。個人が自己アピールに巧みであることに加えて、お互いに助け

合っていこうとする姿勢が強く感じられます。日本の女性研究者もおそらく一度や二度、先達の話に勇気づけられた経験があるはずです。また若い人には20年後のロールモデルを見いだす助けも必要です。あるいはもっと切実に研究上有益な情報も共有できる仲間がほしい。そのような交流の場としてこの会を活用し、また発展することを願いつつ活動を続けています。